

令和5年度 第1回図書館協議会

- 1 日時 令和5年6月9日（金）13:30～
- 2 場所 中央図書館2階研修室
- 3 出席者（委員） 今村委員、福沢委員、玉置委員、雄長委員、矢澤委員、和田委員、林委員、
会津委員、千種委員
（事務局） 瀧本中央図書館長、矢澤中央図書館長補佐兼上郷図書館長、
関口情報サービス係長、宮下地域読書推進係長兼鼎図書館長、木下管理係長
（司会） 木下管理係長
- 4 瀧本館長挨拶
- 5 玉置会長挨拶
- 6 会議事項
 - （1） 令和4年度事業報告および令和5年度事業計画について
 - （2） 図書館アンケートについて
 - （3） その他
 - ・ コンピュータシステム更新に伴う臨時休館について
 - ・ 還元図書市について
 - ・ 「『博覧男爵』を読んで田中芳男を語ろう」について
- 7 事務局からの事務連絡
 -
 -

6 会議内容

（1） 令和4年度事業報告および令和5年度事業計画について

- 会 長 最初に会議事項1、令和4年度の事業報告および令和5年度の事業計画について、事務局の説明をお願いします。
- 事務局 資料「令和5年度図書館概要」により説明。
 - ・ 今年度は第4次図書館サービス計画の3年目となる。

I. 図書・資料・情報提供を充実させます

令和4年度の取組、成果および課題

- ・ 市民ニーズが多様化・細分化する中で、利用者からのリクエストを優先して入門書や専門書など選書し、貸出や調査相談などにより提供した。
- ・ 令和4年5月19日の飯田駅前分室開館に伴い、一部の蔵書を飯田駅前分室に移設した中央図書館では図書の配置を見直し、利用者の方が本を探しやすいように開架書架の配置換えを行った。
- ・ 貸出利用者数は全体で令和3年度より3%増加した。飯田駅前分室が開館したことによる高校生の

利用については、令和3年度の中央図書館の高校生世代の利用者数に比べ、令和4年度の中央図書館と飯田駅前分室を合わせた高校生世代の利用者数は24%増加している。

- ・本を読むことが不自由な方に対しては、朗読ボランティアグループ「声の輪」の皆さんが作成した声の本などの録音図書や大活字本の提供をした。
- ・ビジネス支援事業として飯田市内のリサイクル企業・アースグリーンマネジネント社長の平栗秀信さんを講師に講演会を開催し、環境に配慮した新たな事業を展開している事例を学ぶ機会となった。
- ・令和4年8月から長野県の市町村と県で運営している協働電子図書館「デジとしょ信州」がサービスを開始した。飯田市では163人が登録。

令和5年度の主な取組

- ・市民のニーズに対応した蔵書の充実、資料・情報提供を進める。
- ・南信州図書館ネットワークのコンピュータシステムの更新時期を迎え、10月1日から新システムを稼働させるため、ネットワークを組んでいる近隣町村と運用の検討を進めている。
- ・郷土に関するレファレンス・調査相談の事例が蓄積されており、過去の事例から速やかに必要な情報を提供できるよう、事例の有効活用に取り組んでいく。
- ・狭隘な書庫の保存スペースの確保については、分野ごとの保存基準の再検討を進める。

Ⅱ. 子どもの読書活動を推進します

令和4年度の取組、成果および課題

- ・子どもたちが読書の楽しさを知る、学ぶこと、知ることの喜びを知ることが生涯にわたって読書すること、本を活用すること、図書館を利用することの基礎になる部分であるため、子どもの読書活動の推進には力を入れてきた。
- ・就学前の子どもたちに対しては、身近な環境に本があるように環境整備に努めてきた。7ヶ月児検診時にはじめまして絵本、4歳児におともだち絵本で一人に1冊ずつ絵本のプレゼントを実施。7か月児では99.1%、4歳児は100%の受け取り率。
- ・令和4年度は絵本プレゼントの効果検証のために、令和3年度までに絵本プレゼントを受け取った家庭にアンケートを行った。
- ・保育園・幼稚園への団体貸出を行い、保育所を通して家庭へ本の貸出を実施。家庭での読書習慣の定着を図った。
- ・令和4年5月19日、飯田駅前の「ムトスぷらざ」3階に主な利用対象を高校生とした飯田駅前図書館を開館。高校生の読書や学習交流活動の支援を目的に、テーマ展示や企画を実施した。

令和5年度の主な取組

- ・保育園・幼稚園への団体貸出を継続し、保育所を通して家庭に本がある環境づくりに取り組む。
- ・小・中学生に対しては、学校図書館の司書と連携して読書活動を推進する。令和5年度は連携を強めていくため、上郷図書館職員1名を学校図書館との連携を行う職員と位置づけ、研修についても合同で実施予定。
- ・令和5年度から順次、小・中学校の学校図書館にコンピュータシステムが導入されるため、学校図書館司書と連携しながら、準備を進める。

- ・高校生世代には、高校図書館との連携も図りながら、飯田駅前分室での企画を通じて本に親しむ機会を作っていく予定。

Ⅲ. 身近に使える図書館の充実を図ります

令和4年度の取組、成果および課題

- ・飯田市各地区にある16分館1分室では各地区の読書サービスを担っており、令和4年度には地域読書推進係を設置して、分館への支援に力を入れてきた。各分館では公民館事業や地域の各団体と連携した事業を実施したり、地区の特色やニーズに沿った図書を選書したりした。
- ・分館では、館内の装飾や本の紹介に力を入れるなど、図書館へ来館したくなる雰囲気作りや、本を手に取りたくくなるような書架づくりに力を入れている。
- ・令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館はなかったが、約3年のコロナ禍により、子どもたちが図書分館に立ち寄ることが減っており、子どもの利用が減っている状況がある。

令和5年度の主な取組

- ・令和5年度は、保育所や小学校と連携して来館を促し、コロナ禍で減少してしまった児童や子育て世代の利用を促進する取り組みを実施予定。

Ⅳ. 学びあいにより人と人とがつながり、読書や学びが広がる場づくりに取り組みます

令和4年度の取組、成果および課題

- ・市民の皆さんや研究団体と協働で講座を開催し、学習交流の機会を設けるとともに、本を通じて人と人とのつながりをつくることに努めた。
- ・飯田下伊那読書会交流会では、多様なグループが参加して情報交換することで交流が広がった。
- ・「鼎ナゾとき探偵団」では、鼎中学校の中学生と地域の大人が一緒に鼎地区について調べる活動することで、つながりや学びを深めることができた。
- ・伊那谷地名研究会と連携して伊那谷地名講座を開催し、学びを深める機会を提供した。
- ・飯田駅前図書館では、ムトスぷらざ内で実施する他部署の企画に合わせて関連する本を出張展示して貸出を行い、学びや関心を広げることにつながった。

令和5年度の主な取組

- ・令和5年度も読書を通して学びが広がるように、引き続き飯田下伊那読書会交流会、「鼎ナゾとき探偵団」、伊那谷地名講座を実施予定。
- ・市民の方への読書推進講座として、児童図書に関しては清水真砂子氏の講演を通じた学びあい講座、読むことについては塚田泰彦氏の講演会を計画中。
- ・若い世代にも、ウィキペディアを活用して学びが広がるような講座を企画している。

Ⅴ. 地域の歴史と文化の記録を蓄積し、提供します

令和4年度の取組、成果および課題

- ・郷土資料の収集には、これまでも力を入れてきた。
- ・郷土資料の利活用を図るために、美術博物館の飯田城の展示や歴史研究所の地域史研究集会、市民大学講座等にあわせて、関連した郷土資料を展示した。

- ・利用頻度が高い地元新聞閲覧システムを更新し、デジタル化した地元新聞を継続して検索・閲覧できるようにした。

令和5年度の主な取組

- ・引き続き、郷土資料を重点的に収集していくとともに、蓄積してきた郷土資料を利活用してもらうために、美術博物館、歴史研究所、公民館などの企画と連携して、郷土資料の紹介、情報発信に力を入れていく。

VI. 安全で安心して使える施設を整えます

令和4年度取組、成果および課題

- ・令和2年度末に策定した「飯田市教育委員会施設等総合管理計画」に基づいて、施設の点検、改修等を進めている。令和4年度は中央図書館エレベーター更新工事、東側外壁の改修工事、空調設備の一部更新、中二階照明のLED化工事等を実施。
- ・コロナ禍でも安心して図書館を使っていただけのように、感染状況に合わせて安全対策をとって開館した。

令和5年度の主な取組

- ・「飯田市教育委員会施設等総合管理計画」に基づき、令和5年度は中央図書館の空調設備更新工事、上郷図書館のトイレの洋式化工事等を予定している。

〔質疑〕

○会 長 今の説明を受けて、ご質問ご意見等をお出しいただきたいと思います。

○委員A 「令和5年度図書館概要」の7頁にある「第4次飯田市立図書館サービス計画取組指標および目標値」、全国学力・学習状況調査から引いてきている「日常的に読書を行っている子どもの割合」がある。目標は県平均以上だが、令和元年は県平均が小学6年生69.0%で飯田市が67.1%、中学3年生の県平均が57.1%で飯田市が55.6%で、やや低いところだが、令和3年度、4年度と飯田市の割合が下がってきているのが気になる。コロナが原因なのか、他にも要因が考えられれば教えていただきたい。

○会 長 図書館でその要因を把握されているかどうかですが、他の委員の方から何かあればご発言いただきたい。

○委員B 緑ヶ丘中学校では毎朝10分間の朝読書を行っており、日常的に読書はしていると思う。

○事務局 「令和5年度図書館概要」7頁のこの指標は、「全国学力・学習状況調査」の中で「学校の授業以外に、普段（月～金曜日）10分以上読書をしている子どもの割合」である。10分以上という時間については検討の余地があると思うが、10分以上本を開いていれば自発的に読書をしているのではないかと考えている。令和3年度、4年度は飯田市だけではなく県平均も下がっているが、タブレットなどで動画やインターネットなどを見る時間が増えている影響が大きいのではないかとと思われる。タブレットで本を読んでいる子

どもたちもいるかもしれないが、紙の本を開く子どもたちが減っているのではないかと考えている。小さな頃から本の楽しさを知り、読書習慣を身につけられるような読書推進を行っていききたい。

○事務局 この全国学力・学習調査では、「読書をしている時間」や「動画を視聴している時間」という設問があった。その時間をみると、飯田市立図書館では10分以上を日常的に読書していると捉えているが、インターネットや動画は選択肢に10分という単位はなく、30分以上からとなっている。読書で1時間30分という時間はなかなか取れないが、動画やインターネットに接している時間は取られている。以前は「学校図書館以外の図書館の利用をしているか」という設問があり、飯田市の子どもたちはその割合が高かった。これは分館を利用している子どもたちが多かったということだと思われ、飯田市の特徴だという話も出ていた。子どもの読書については、数字的にどのようなもので把握していくのが難しく、この指標を目安として採用しているが、学年によって傾向が違うこともあり、取組としては子どもたちに本の楽しさを伝えることに力を入れている。

○委員C 子どもたちに本の楽しさを伝えることはとても大事。7か月児のはじめまして絵本や4歳児のおともだち絵本のように、絵本プレゼントはとても良いことだと思っている。日常的に本がある状況を作ることが大事だという話をしたら、「私の本」という特別な感覚を得ることも大事だと聞いた。小さいときから本に接する機会があれば、高校生になっても、大人になっても本を読むと思う。

○委員D 子どもがおともだち絵本をもらえることをとても楽しみにしている。兄弟の上の子どもたちが「この本、もらったよね。」という話をしていると、自分も欲しくなる。幼稚園で同じ本があって借りてくることができるが、「自分の本」ということが大事。借りてきて気に入った本があると、「自分のその本」が欲しくなる。借りてきた本は返さないといけませんが、絵本プレゼントでもらった本は「自分の本」という特別感があり、とても大事に思っており、ぼろぼろになっても大事にとってある。

○委員C 「自分の本がある」ということは、とても大事なことです。放課後の時間帯に中央図書館に来ると、小学生がたくさん来ていた。それは追手町小学校の子どもたちの特典だと思っている。小学生時代に本にたくさん接することができることはとてもいいことだと思う。

小・中学校の図書館のシステム化とは具体的にどういうことなのか教えてほしい。

○事務局 各小・中学校の図書館で所蔵している本をすべてコンピュータシステムに登録し、貸出、返却、検索、予約などがパソコンからできるようになることである。

○委員C その学校の中で使えるようになるということか。

○事務局 その学校内で使っていくということになる。

○委員C 子どもたちもそのシステムを活用していくのか。

○委員D 子どもたちはシステムにはすぐに慣れると思う。

○委員C コンピュータシステムを導入することで貸出が増えるといい。

- 事務局 システムを導入することで、読みたい本を様々な方向から探せるようになり、求めている情報に辿りつきやすくなる。求めている本に辿りつく経験が、将来にもつながっていくのではと期待している。
- 委員C 本が身近になってくると、調べ学習などにも良いと思う。以前はどう調べたらいいのかと思い図書館に行って、茫然として棚を見ていたこともある。
- 委員B 飯田市立図書館の蔵書も一緒に調べられるようになるのか。
- 事務局 公立図書館と本の情報を共有するシステムではない。飯田市立図書館の蔵書については、市立図書館のホームページから検索して調べることができる。また、南信州図書館ネットワークのコンピュータシステム更新に伴って、市立図書館のホームページの中に子ども向けのページを作成予定である。これまでは子どもたち自身が調べるページはなかったが、タブレットが配布されてインターネットで調べものができるようになったため、子ども向けページの検討を進めている。授業でも市立図書館の蔵書を検索したり、ホームページの子ども向けページを活用していただきたい。
- 委員B 市の教育委員会と連携して、児童・生徒たちに配られているタブレットに市立図書館ホームページのアイコンを表示できるとよい。
- 委員E 緑ヶ丘中学校学区（緑ヶ丘中・松尾小・竜丘小・下久堅小）では司書の小中連携部会があり、年に数回会議を開催している。上郷図書館に配置された学校図書館支援担当職員がその会議に参加してもらえるとよい。具体的に学校図書館司書の支援はどのようにしているのか。公共図書館職員の増員はあるのか。
- 事務局 子どもの読書に力を入れていくために増員してほしいという要望は出しているが、令和5年度、公共図書館職員は増員とならなかった。他の支援員の先生のように、図書館の支援員を司書にプラスして学校に配置するということは現段階では難しいと考える。今年度からは今まで配置のなかった遠山地区にも市費で司書が配置され、兼務はあるものの市内全校に図書館司書の先生が配置された状況。さらに、プラスの人員を配置することは難しい現状である。学校司書の先生方とも話し合っ、これから先の学校図書館をどのように運営していくことがいいのかを考えた際に、1校1人や学区に1人の支援担当職員の配置は難しいため、上郷図書館職員を学校図書館支援担当職員として位置づけた。学校図書館全体を支援する職員と位置づけ、少しずつでも飯田市全体の小・中学校の学校図書館をサポートしていく予定である。学校図書館の今後の充実のためにはどういう体制がいいのか、学校の皆さんや市民の皆さんと一緒に考えて、増員についても将来的な視点からこうしていきたいという声を上げていきたい。
- 委員E 上郷図書館に配置はされているが、上郷の学区に配置されたとわけではないということか。
- 事務局 上郷図書館を飯田市の子どもの読書に関しての拠点と位置付けており、学校図書館支援担当職員は飯田市全体の学校図書館の支援担当である。学区ごとの司書や担当の先生方の会議には、学校図書館支援担当の職員や地域読書推進係の分館担当の職員も参加させていただきたい。

- 委員 F レファレンスの事例について令和4年度は2,300件ほどあり、レファレンス事例を蓄積していくと書いてあるが、現段階でまとまっているものはあるか。
- 事務局 現在はレファレンス内容や提供した資料を紙に記入して蓄積しているが、次に同じレファレンスを受けた際に、その蓄積をうまく活用できないという課題がある。「国立国会図書館レファレンス協同データベース」という全国の図書館のレファレンスを登録・検索できる仕組みであり、WEBで公開されている。素早く確実な情報を提供できるように、飯田市立図書館も令和4年度にそのレファレンス協同データベースに登録し、現在はその仕組みを活用していけるようマニュアルを作成中である。
- 委員 F 現段階でレファレンス事例がまとまっているものはないか。
- 事務局 飯田市立図書館のホームページの「レファレンス・調べもの」に、飯田・下伊那に関するレファレンス事例をまとめたものを掲載しているため、ご覧いただければと思う。
- 事務局 レファレンスについては、より複雑で専門的なレファレンスが増えてきている傾向があり、インターネットなどにより自分で調べられるようになってきているため、レファレンス件数自体は減少傾向にある。
- 会 長 現在はかなり自分で調べられるようになってきており、自分で調べてみてもわからない場合は図書館に聞くという傾向がある。
- 事務局 大人は自分で情報を探し出せても、子どもたちがインターネットから知りたい情報をどれだけ得られているかが課題。確実な情報を提供することが図書館の役割でもあるため、子どもたちの情報収集能力の向上に向けて取り組んでいきたい。

(2) 図書館アンケートについて

- 会 長 それでは次に会議事項2、図書館アンケートについて、事務局の説明をお願いします。
- 事務局 別紙1「図書館アンケート実施計画（案）」により説明。

- ・令和7年4月1日施行予定の「第5次飯田市立図書館サービス計画」の策定に向けて、市民の方の意見を反映させるためにアンケートを実施予定。
- ・図書館アンケートは今年度で3回目の実施となる。比較のため、基本の設問は前回、前々回の内容を踏襲し、聞きたい項目を新しく追加した形である。
- ・対象は中学生以上とし、来館者と非来館者からの回答を計画中。非来館者は幅広い年代の方からご意見を伺いたいため、様々な場でのアンケートを予定している。
- ・スケジュールとしては、7～11月にアンケートを実施し、今年度中にアンケート結果をまとめ、来年度策定する「第5次飯田市立図書館サービス計画」に反映予定である。

- 会 長 今説明がありましたように「図書館アンケート」を実施するということですので、皆さんからいろいろとご意見をいただきたいと思います。市民の皆さんの声が反映されたサービス計画が策定できるように、ぜひご意見をお出してください。

- 事務局 前回のアンケートにおいて今後図書館で力を入れてほしいことで1番多かったものが、本や雑誌の充実だった。しかし、前回のアンケートからはどんな内容の本の充実が求められているのかわからなかったという反省があり、皆さんが読んだり調べたりしている分野が具体的にわかる設問を取り入れた。
- 1年間で、図書館で購入する本は文学が多いが、出版自体の点数が多いのは3分類の社会科学の本である。こうした違いは市民の皆さんの要求をきちんと反映しているのかという反省も含めて、市民の皆さんはどのような分野の情報を求めているのか、市民の方の要求を蔵書構成に反映させたいと考えて項目を増やしている。
- 会 長 この点について、いかがでしょうか。
- 委員A 自分が借りる比率としても文学が多い。飯田駅前図書館には哲学や社会科学分野で手に取りやすい本がある。蔵書を増やしてもらえるのはありがたく、自分の読書傾向の範囲が広がるような本があるといいと思う。「読んだり調べたりすることが多い分野」という項目は、選択肢に「健康」「歴史」といったことがあるのか。
- 事務局 そうである。
- 委員A 「調べたり」というのは、インターネットで調べる分野も含んでよいのか。
- 事務局 インターネットで調べる分野も含んで、答えていただきたい。
- 委員E アンケートの問3-1「読んだり調べたりすることが多い分野」の項目では、読む分野と調べる分野を分けた方がよいと思う。「普段、どんな本を読みますか」という設問であれば、「読む」ということに特化して聞くことができる。
- 「1年間にどのくらい本（雑誌、コミックは除く）を読むか」は、時間、冊数などの聞き方によって答えが分かれると思うので、選択肢を工夫してほしい。
- アンケートの対象者は中学生以上になっているが、小学生も対象に含んでほしい。下久堅小学校の子どもたちは、読み聞かせボランティアの方たちの活動もあり、日ごろから読書に親しんでおり、タブレットで答えられる環境もあるため検討をお願いします。
- 会 長 様々な意見が出たが、対応してもらえそうか。
- 事務局 本アンケートは中学生以上を対象としているが、小学生へのアンケートについては、どのようにしたらよいか検討したい。
- 委員C 結果は令和6年3月に発表されるということか。
- 事務局 その予定である。

(3) その他

- 会 長 それでは、その他について説明をお願いします。
- 事務局 別紙2「南信州図書館ネットワークのコンピュータシステム更新に伴う臨時休館について」、「還元図書市」チラシ、『博覧男爵』を読んで田中芳男を語ろう」チラシを説明。

- ・飯田市、松川町、高森町、豊丘村、喬木村の1市2町2村で共同利用している現在のコンピュータシステムを更新し、令和5年10月1日から新システムへ移行予定であり、そのシステム更新に伴い、9月18日から30日までの13日間を臨時休館とする。
- ・還元図書市（6月16日～6月20日）
図書館で除籍された本や十分ストックがある郷土資料を市民の方に差し上げるもの。
- ・『博覧男爵』を読んで田中芳男を語ろう（6月25日）
志川節子著の『博覧男爵』は、飯田市出身で「博物館の父」といわれる田中芳男の生涯を描いたもの。この『博覧男爵』を読んで、田中芳男について気軽に語る読書会を開催。

○事務局 玉置会長は録音図書を作成されているが、この『博覧男爵』の録音図書を吹き込まれたのが玉置会長である。

○会 長 『博覧男爵』が出版された際に、録音図書を作成した。目の不自由な方からもリクエストがあり、大変面白かったとの感想をいただいた。

○会 長 その他の連絡まで終わりましたので、皆さんから感想やご意見をお聞きしたいと思います。

○委員G 保育園や小学校で読み聞かせボランティアの活動を行っているが、ボランティアを始めた20年近く前に小学校5、6年生に読んでいた本が、今の5、6年生の子どもたちには読めない状況がある。読んでも、子どもが理解できていない場合も多い。
読み聞かせのプログラム構成を考える際に、この時期ならこの本と出会わせてあげたいと考えて本を選ぶが、「去年のこの学年にこの本はどうだったか」となると、何年か前は子どもたちも理解している空気感があったが、去年は理解している雰囲気伝わってこない子どもたちも多くなったという話もある。子どもたちの活字離れ、文字離れが関係しているのかもしれないという話も出ている。
また、読み聞かせボランティアの活動している人が高齢化してきており、若い方の活動への参加が少ないことも課題である。子どもが小さいうちから楽しい本と出会わせたいという気持ちもあり活動が続けているが、各家庭でも子どもと本を楽しんでもらえるように、ボランティアとしても働きかけていきたい。

○委員H 文章講座同窓会も会員の減少と高齢化が課題になっている。こうした課題克服のために、今年度から仲間と一緒に新しい取り組みを行い、頑張っているところである。

○委員D 子どもが自分で本を読めるようになってきた頃に、コロナの感染症対策で図書館利用に滞在時間の制限がかかってしまい、子どもたちが図書館で本を読んで過ごすことができなくなってしまった。学校帰りに図書館で過ごす時間は子どもたちの楽しみのひとつだったので、コロナも落ち着いてきた今年度は、その楽しみを体験させてあげたいと思

う。

- 会 長 学校帰りに図書館に寄ることはできないのか。
- 委員D まだ待ったほうがいいという家庭もある。
- 事務局 上郷図書館では小学校の帰りに小学生が多く立ち寄っている。学校の方針にもよるが、地区の分館でも小学生が立ち寄る分館もある。
- 委員D 図書館で子どもたち同士が本を勧めあったり、読みあいをしたりしている様子も見られる。子どもたちが図書館で楽しむ時間をこれから作っていけたらと思う。
- 会 長 上郷図書館は絵本も充実しているので、子どもたちであふれるようになるとよい。
- 委員 I 図書館が多岐にわたって様々な活動をしていることがわかった。分館のクリスマス会などで公民館と連携した事業を開催しているため、他の公民館の活動でも関わってもらえればありがたいと思う。地域に関することを勉強している地域の方たちも図書館は活用されている。
- 事務局 公民館主事が分館主事を兼ねているため、地域とのつなぎ役を担ってもらっており、公民館には協力していただいている。
- 委員 E 来週から読書旬間で、親子読書や読み聞かせボランティアの活動が行われる。本を読む子どもは1年間に200冊、少ない子どもでも80冊くらいは読んでいる。その中で、どんな本を読んでいるか調べてみたが、文学を読んでいる子は数人である。学力との相関関係は分からないが、本を読んでいる子どもは文章を書く力もある。
国語の教科書に掲載されているものは説明文が多くなっているが、教科書のなかで子どもの印象に残るのは、「モチモチの木」や「大造じいさんとガン」などの文学であり、子どもたちは文学が好きだということがわかる。図書館で様々なことに触れていくことで、文学の登場人物の気持ちも理解できるようになっていくと思う。
- 委員 B 中学生は部活や勉強、塾などで読書時間がとれないだけで、むしろ本は好きである。各中学校と公共図書館が連携して、学校に所蔵がない本を公共図書館が届けてくれるといったことができると思う。そういうことができれば、図書館の利用者はもっと増えていくと思う。学校図書館では所蔵資料に限界があるため、調べものはインターネットに頼りがちであるが、公共図書館とうまく連携ができれば違ってくるのではないかと思う。どうしたら来やすい図書館になるかについては、子ども達に意見を聞いてみるといいと思う。
- 会 長 皆さん、本が好きでいろいろな思いがあるため、図書館に協力できればと思っている。出された意見が活かされていくとよいと思う。